

震災後3年4か月、多くの浜で復興工事が始まりました。一番外の防波堤が完成するにはしばらく時間がかかりそうです。しかし、今までほとんど手がつけられていなかったことを考えるとかなりの前進だと思います。本号では牡鹿地区の現状と昨年に引き続き実施した門脇地区の花壇活動について報告します。

石巻市役所から花壇撤去の依頼書が届き考えたこと

震災後3年以上経った6月初めに石巻市から高台工事着手のため、今まで活動してきた私たちの花壇や看板等を全て撤去して欲しいとの書類を受け取りました。6月22日に予定している花壇づくりの計画を那須烏山市内の全小中学校に説明し募集を掛けていた時だったので中止の2文字が頭をよぎりました。

石巻市門脇で奥さんを失い花壇活動に特別な思いで取り組んでいる焼きそば屋の店主尾形勝壽さんやNPO 法人 JEN の方が相談に乗ってくれ代替え地を用意するので是非続けて欲しいと言っていただいたが、石巻市の撤去命令は私たちの花壇づくりが被災者にとって本当に必要なものなのかを考えるきっかけとなりました。

震災後3年以上経過した今、何もかも喪失し再びこの地に住もうと思う人が2割にも満たなく、希望調査毎に減少し続けることを考えると花壇が現地の人の役に立っているのだろうか、花を見て再び元の地に戻ろうと思う人が本当にいるのだろうかと冷静に考えると自分たちの自己満足のために子どもたちを巻き込んでいるだけではないかと疑問が湧いてきます。

多くの門脇地区の皆様の話を伺うため、6月8日(日)に龍 JIN の仲間と石巻を訪ねた。

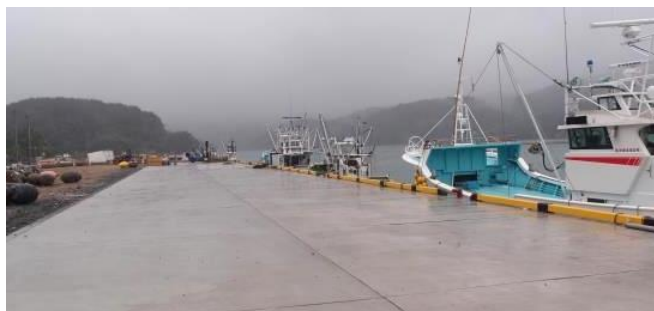
「震災3年以上経過しても私たちを忘れずに遠い栃木から子どもたちが来てくれることがどれだけありがたいか」と何度も話してくれるおばあさんや「栃木の花壇を見ていつも感謝しています。次の花壇活動の時はお手伝いさせて欲しい」と言ってくださるなど花壇が多くの方と子どもたちの心の架橋になっていることを知り、とても明るい気持ちになり花壇活動は何としても続けなければと思いました。

牡鹿半島の現状

6月8日(日)門脇地区の調査活動終了後、牡鹿半島を一回りしてきました。

荻浜は1.2m以上沈下した船着場の復旧工事が完成していました。

多くの浜では牡蠣養殖のブイが震災前とほぼ同じ量に戻っているのが印象的でした。



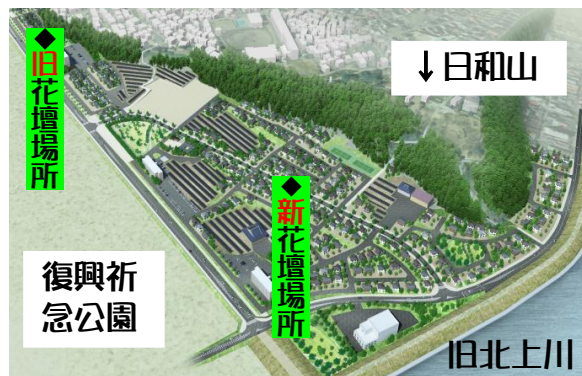
1.2mのかさ上げ工事が終了した荻浜



牡蠣養殖用ブイの数量が戻った小網倉浜



護岸工事が進む荻浜中学校



「復興門脇」の構想図(石巻市役所資料)

桃浦浜は国が推奨している漁業の株式会社化を採用した地区であり、いち早く復興工事が完了していました。

これから注目されながら活動していくこと



漁業の株式会社化工事が進む桃浦浜



谷川小跡地に建設された生コン工場

になりますが是非成功して欲しいです。他地区は復興工事の重機械が浜に据えられ、これから本格的に工事が始まる状況でした。復興工事の成否を握る生コン工場が震災で大きな被害を受けた谷川小学校跡地に誕生していました。これから本格的に稼働開始するそうです。復興生コン工場に頑張ってもらいたいです。

6月22日門脇地区花壇活動実施

被災地の皆様の思いが子どもたちに伝わったかのように定員をはるかに超える申し込み者でした。6月22日、市内6つの小中学校45名、ガールスカウト栃木県連盟26名がバス2台で門脇に向かいました。往きのバスの中ではどうして今、被災地に花壇づくりが必要なのか、被災地の方が本当にして欲しいことは何なのかの勉強会を行いながら子どもたちが自ら考え行動できるよう一生懸命問いかけました。

いつも迷うのが悲惨な状況をどこまで伝えるかですが震災直後の写真を使い被災者の辛さをできる限り丁寧に説明することにしました。話に耳を傾ける子どもたちの表情から被災者の辛さを理解し真剣に活動しようとする意欲が伝わってきた。

活動当日は多くの現地の方に参加いただき充実した交流会になりました。



85名参加で実施した交流会



門脇地区代表世話人の本間さんや尾形さん、NPO 法人 JEN、竹中工務店の皆様が迎えてくれました



各学校及びガールの代表も挨拶しました

その後、予定時間をはるかに超過しながらも皆んなで協力し合い新しい花壇づくりを終えました。新しい花壇は今までの場所から600m～700m離れた門脇小学校庭の側面部分でしたが、2年間は工事が始まらないと伺いました。例えば短い期間でも喜んでもらえる人のために頑張りたいとの思いが伝わってきました。



門脇小学校庭側面部に新しい花壇をガールと協同して作りました

浜のお母さんたちのグループ JEEN のお弁当をいただく

牡鹿半島の女性漁業士 4 人で震災に負けるものかとの思いで立ち上げた浜のお弁当屋さん JEEN と交流を続けているが今回も私たちの昼食 8 1 食をお願いした。ホタテ飯に牡蠣の煮付けなど海の幸がたくさん入ったお弁当を美味しくいただいた後、次の交流活動地である荻浜地区に向かいました。

JEEN の豊嶋さんからお弁当の話伺いました

荻浜地区では江刺区長さんが浜で出迎えてくれ震災当初から今までの苦労話を話していただきました。今は牡蠣の種付け作業が真っ最中であることを現物で説明され、作業現場に案内してくれました。震災後、この地区の牡蠣の値段が安くなりとても苦労しているが負けてなるものかと頑張っていることなどを一生懸命話している姿に子どもたちも真剣に聞いていました。



牡蠣の加工場



牡蠣の種付け



江刺さんへ土産

荻浜区長の江刺さんから牡蠣の話や震災の様子を丁寧に説明していただきました

帰りのバスの中で子ども達が「3年経っても何も変わっていないことを知った。被災地の方からありがとうと言われて嬉しかった。花を見て元気になって欲しい」「如何に自分たちが恵まれているかを思い知った」などの感想を話してくれた。

今回の活動で思うこと

子ども達の心の成長を願って被災地に子ども達を連れていくようになってからのボランティア活動も世の風化と逆行し、回を重ねる毎に参加希望者が増え嬉しい限りである。子ども達の感想を聞いてバスの2人の運転手も「自分の子どもの頃とは雲泥の差、しっかりした言動に感動した」と話してくれた。子ども達のボランティアに対する私達の思い、意図がしっかり実を結んでいることを実感した。

学校や家庭だけに任せるのではなく社会全体で子ども達を育てる活動がもっと広がることを願っている。

龍 JIN としては今後も被災地の皆様のために子どもたちと一緒に活動が続けます。今まで以上のご協力をよろしくお願いいたします。



↓目隠しされている門脇小

新しい花壇づくりが終了し、各学校及びガールの看板が立ち並ぶ門脇小学校庭側面部